

殺虫混合剤と抵抗性管理 ガイダンス

2023年8月30日



殺虫剤抵抗性対策委員会

IRAC声明: 殺虫混合剤

殺虫混合剤* (タンクミックスまたは混合製剤)は様々な理由で使用されている。混合剤は、ローテーション計画の一部として使用されると、抵抗性管理においても貢献する可能性がある。

- 殺虫剤抵抗性管理(IRM)で殺虫混合剤を使用するときの重要な検討事項:
 - 抵抗性管理の効果を発揮させるためには、殺虫混合剤に作用機構が異なる有効成分を配合すること。
 - 商品名が異ってもIRAC作用機構分類が同じ有効成分の混合は抵抗性管理には適さない。
 - タンク混合については、各構成成分のラベルに記されている説明文に従うこと。
 - 混合剤に使用する各殺虫剤は、標的となる昆虫の生育ステージに効果的であること。
 - 標的昆虫が両方の殺虫剤に同時に暴露される必要がある。
 - 交差抵抗性** が限定的あるいは無い殺虫剤について混合すること。
 - 標的昆虫が、両方の有効成分に対して抵抗性が無いかあるいは著しく低ければ、混合剤が最も効果的となる。
- IRACは、同じ混合剤の繰り返し使用を唯一の防除手法とすることを支持しない。
- 殺虫剤は必要なときにのみ使用され、また、IPM(総合的病害虫管理)計画の一部として行うものとする。

他に記載が無ければ、上記の推奨事項は、単一の標的防除シナリオおよび相乗的に作用しない化合物の組み合わせにおける抵抗性管理で使用する混合剤に対して記したものである。



*ダニ駆除剤を含む

**2つまたはそれ以上の殺虫剤作用機構に対する、同じ抵抗性機構によって得られた抵抗性。